

四国伝道 (2013年10月17日～24日)

日本文化宣教協力会主管伝道者、高橋敏夫名誉牧師を
“特別伝道礼拝と午後の講演”にお迎えして

伊達みつ子 (高松シオン教会)

25年間在住の春日部から、高松に帰ってきて満十年が過ぎた。いつか春日部福音自由教会でお世話になった高橋先生を高松シオン教会に紹介出来たら！という思いは持っていたのだが、月日がたつのは早いこと、10年たったこの秋、ふっとそれが実現することとなった。

高橋先生が特伝の講師で来てくださることが決まってから半年余り、高橋先生は、昨年9月に発足した日本文化宣教協力会から遣わされるということで、山田先生が窓口となってくださり、こちらは伊達が窓口をさせていただき、準備をさせていただいた。窓口をさせていただく者としては心密かに2つの願いがあった。一つは、高橋先生……“だれか目標になる日本人クリスチャンはいないだろうか？”というところから、キリストを信じるがゆえに城を追われ大名の地位を捨て、国外追放にまでなった「高山右近」と出会い、その高山右近の信仰に倣おうと、茶道も始められ、その茶の湯の精神の中に、実はキリスト教の精神が色濃く宿っていることに気づかされ、ずっと今も研究し続けておられる高橋先生！”……のような先生がおられること、またそのような伝道方法もあることを、ここ高松のみなさんにも紹介したかった。

10月20日(日)特伝の当日、初めて教会に来てくださった方にもわかりやすく「生きること、死ぬこと」をテーマに、今まで聞いたことのない切り口での福音に耳を傾けた。午後は茶道とキリスト教(侘び茶の中に秘められた福音)をテーマに語ってくださった。とても興味深かったと

感想を言ってくださる方もいた。

初めての方も何名か来てくださっていた。

もう一つは個人的に、春日部時代にお世話になった高橋先生が、今回の高松に来られることによって研究されていることに何か一つでも益になることがあるような旅となること、との願いがあった。それで、“高山右近が潜伏していた小西行長の領地であった小豆島”にしみじみ高橋先生をご案内しようとして下見に行ったところ、小豆島のカトリック教会で、高山右近を中心にしたキリシタンの遺跡巡りの案内をする計画があるとお聞きしたので、またその日に行ってキリシタンの遺跡の実物をめぐるツアーにご一緒させていただいた。このような思いがけないわくわくするような歴史探検の時を持たせていただいたことは喜びだった。また、高橋先生とご一緒に、八十九番寺をつくり！と言って伝道に来られた今は亡き小畑進先生の後、励んでおられる池戸教会の桑原先生を訪問したり、高橋先生と同じ神学校卒の観音寺キリスト教会の宮原先生ご夫妻を訪問したりなど……！運転をさせていただき、ご一緒させていただいたゆえの恵みをも味わわせていただき、また車の中での高橋先生との交わりもとても喜びだった。

(午前の特別礼拝 大人65名 子ども12名)



大津伝道 (2013年12月7日～9日)

大津福音自由教会 牧師 瀧野弘司

2013年12月8日、高橋先生に大津福音自由教会に来ていただき、礼拝メッセージと礼拝後の信徒セミナーの時を持ってくださいました。セミナーでは参加者の質問に答えながら、高橋先生の信仰の歩み、牧会の経験を通して与えられた大切な示唆を語ってくださり、「キリスト教」ではなく、「キリスト道」の「修道」であることを教えていただきました。高橋先生らしくユーモアにあ

ふれた切り口は、“後で効いてくる”ものと思います。

日本文化の中で福音を伝えることの大切さは、春日部福音自由教会の中で歩んできた私にとっても大切なテーマでした。そこで私は子どもの頃から落語が好きで、学生時代に「落研」にもいたということで、落語を通して福音を伝えられればと思うようになり、社会人落語家として、「福音亭ばすた」(pastor〈牧師〉から)という高座名を名乗って、福音落語を通して日本文化で宣教し始めています。これも高橋先生から学んだ姿勢の、私らしく表現できる福音宣教として取り組んでいます。

京都・大阪伝道 (2013年11月1日～4日)

枚方コミュニティチャペル 牧師 水野 健

11月4日、近畿放送伝道協力会主催で「茶の湯とキリスト教セミナー」を大阪市玉造の近放伝事務所で行いました。出席者は全員で15名でした。名古屋、滋賀県、奈良県からも出席があり、出席者の関心の深さを感じました。神学校の校舎でクリスマス茶席を用意されている方から、本を読まれて出席された方など、様々でした。10時半～14時半まででしたが、様々な質問がなされ時間の短さを感じました。



洛西上里チャペル 牧師 石飛秀生

昨年の11月3日、水野先生のお世話で、研究の旅の途上にある高橋先生に立ち寄って礼拝説教をしていただき、皆とても感謝しています。ルカ15:25～41から「神のもてなし」と題してみ言葉をいただきました。遠方の知人に先生の説教を送った所、素晴らしい評価をいただきました。洛西の地は竹林が多く、茶道の竹製品があるということで、お交わりした後、先生を田舎のひなびた竹細工屋にご案内できました。先生、ありがとうございます。



鳥取伝道 (2013年11月29日～12月2日)

琴浦町教育委員会教育長 小林克美 (琴浦家の教会)

2013年11月29日、鳥取県東伯郡琴浦町「まなびタウンとうはく」において、春日部福音自由教会牧師、高橋敏夫牧師を迎え、「なぜ戦国武将はわび茶に熱中したのか～一期一会の心～」と題し、講演が行なわれた。会場には、およそ60名の受講生が集い、みな熱心に講演に聞き入っておられ、活発な質疑応答もあった。

死と背中合わせの現実の中で、生きることを問い、その答えをキリストのうちに求めた武将の想いをたどった時間だった。

翌日12月1日は、我が家が会場となっている琴浦家の教会にて、礼拝と学びの時を持った。

礼拝は、学生時代からの友人である、山田豊牧師による奨励があった。

Iコリント：15章1節～11節から、福音とは死んで蘇られたイエスキリストの物語であり、パウロは、迫害する者から迫害される者になり、今も生きて働いておられるイエス・キリストから離れることなく、生涯を全うした、と語られた。私たちが、キリストから離れることな

く、恵みの中で生きることを感謝できるものとなりたい。礼拝後、昼食をとみしながら、教会形成についての学びは、高橋敏夫牧師により進められた。

成長過渡期にある、現在の家の教会のあり方や今後の方向性についてアドバイスをいただいた。礼拝は、非日常的な空間で神様のおもてなしを受けるものである。礼拝の妨げになると思われるものは、極力置かず神様を礼拝するにふさわしい場所としたい。

今後の教会形成について、必要とあれば労を惜しまないことも言われ、和やかなうちに会を閉じた。

